

第 29 期定時株主総会質疑応答概要（2024 年 12 月 21 日開催）

Q1：招集通知 37 ページの貸借対照表について長期貸付金が減少し投資有価証券増加している理由を教えてください。（会場質問）

A1：長期貸付金 20 億円の減少は昭文社の持株会社（当社の連結子会社）を当社に取り込んだためであり、それにより投資有価証券がほぼ同額増えています。（執行役員 清水）

Q2：サステナビリティの取り組みの一環として拉致問題の啓発をされてはどうでしょうか？企業イメージの向上という狙いも含めて、拉致問題の啓発をされてはどうか？（会場意見）

A2：当社のサステナビリティの取り組みは当社 HP に記載のとおり、少子化問題、妊娠、子育て、出産、学校 DX、防災等を中心に、自治体や様々な企業と一緒に取り組んでいます。いただいたご意見についても検討させていただきます。（代表取締役 前多）

Q3：フリーランス新法に関して、コンプライアンスの管理はどのように取り組んでいかれるのでしょうか？（会場質問）

A3：フリーランス新法に関しては、法律、規程、ガイドライン等に則り、場合によっては法律の専門家にも確認をいただきながら進めています。コンプライアンスの管理につきましては、社内で検知した疑わしい問題に関しコンプライアンス委員会を四半期に一回開催し、問題の共有や今後の対応について議論することを通じて対処していきたいと考えています。（執行役員 日根）

Q4：AI による権利侵害や仕事がダンピングされるなどの行為が行われる。AI に関しても（コンプライアンスの）取り組みをしていただきたい。（会場意見）

A4：ご意見ありがとうございます。検討させていただきます。（代表取締役 前多）

Q5：（Q1 について）昭文社に対して貸借対照表上、大きな額が動いている。何か戦略的な意味合いがあるのか。

A5： 特にございませぬ。もともと当社単体と当社子会社 3 社で昭文社株式を保有しておりました。この子会社 3 社に対して当社から融資を行い、その原資で昭文社の株式を保有していました。29 期においてこの 3 社を吸収合併したことにより当社の貸付金が消滅した結果、直接当社が昭文社の株式を持つという会計処理を行ったというのが実態です。（取締役 松本）